

## 北海道 ニセコ周辺 山スキーツアー

中村、池田、橋本、片山

【日時】2007年1月25日(木)～28日(日)

【メンバー】L/中村、池田、関口、橋本、植島、片山

千歳空港を下りると雪が無い。毎年ほぼ同じ週末に来ているが、これほど少ないのはこれまでに経験したことがない。北海道もダメか・・・と半ばあきらめ。しかし、支笏湖を過ぎると雪が多くなり、真狩近辺ではいつもの量。降雪もだんだん強くなってきた。明日までは天気が悪そうなので、計画を変更して、ワイス、女国内、羊蹄、アンヌプリの順で山に入ることにした。

### 1日目 (25日) : ワイスホルン (中村、関口)

体力温存のためゲレンデで過ごしたい池田さんを、比羅夫スキー場で下ろす。スキー客の半分くらいが外国人ではないかと思うほど多い。その後、ワイススキー場へ。宿泊地 五色温泉では雪が降っていたが、峠を挟んだこちら側は晴天。雪上車に乗りゲレンデトップまで行く。幌がなく荷台に乗るだけの簡単なもの。安全上問題ないのか?と思ったが、楽に山に行けるのだからまあいいか。



ここから山頂までは30分くらい。山頂はガスの中。折角なので三角点のある隣のピークまで行くが、視界は全く無く、先ほどのピークまですぐに戻る。すると聞きなれない言葉が聞こえる。外国人5名ほど。オーストラリアから来たとのこと。ゲレンデだけでなく山にも外国人が多いようだ。

雪はまずまず。すぐにゲレンデと合流して、尾根ルートに行く。一休みした後は、ゲレンデで遊ぶことに。このゲレンデ遊びがすごかった。今朝まで降った雪で、全面パウダー。その上、平日で空いていて、滑っても滑っても食い尽くせなかった。【記 中村】

### 2日目 (26日) : 女国内岳 (中村、関口、池田)

今日は今回の遠征の目玉の1つ、目国内岳です。地形図では林道から沢を渡ってすこし登り、しばらく開けた平らな台地を進むと、もう一度山頂へ向けて登ります。う～ん楽しそう! 2つの斜面を滑って帰ってくるのも楽しみだけど、平らなところを、山頂を眺めながらのんびり歩いて登るのも気分良さそう。



新見温泉に車を止め、林道をヘアピンカーブまで歩き、沢へ下ります。気になる渡渉ですが、なんとかブリッジを見つけて通過。北海道とは言え小雪で、ブリッジを渡るのもドキドキします。

最初の樹林帯斜面を登っている時、後ろから人の声がしました。大きい声で騒いでいるので、珍しいなあ〜と思っていると、話しているのは日本語ではない雰囲気。近づいて来たのは、大柄な外国人の皆さんの10人くらいのパーティでした。さすがニセコ。話し掛けると、ほとんどはスウェーデン人で、あとはアメリカ人、オーストラリア人、ニュージーランド人が1人ずつだそう。スウェーデンって、今冬だよね？森もありそう。わざわざ日本に来るなんて、

日本の山スキーってそんなに有名なの！？

インターナショナルPの強力なラッセルのおかげで、山頂への斜面は廊下を歩くような快適さ。稜線に出るところだけは、我がPの闇の会員外リーダーが雪庇を切り開き、日本の技術(?)を見せ付けていました。

稜線と山頂は強風とガス。滑降準備をして出発するも、しばらくは滑ってるのか止まっているのか分からない状態。それでも少し下りてくると、上質な雪を存分に楽しみました。樹林帯も嬌声を上げながら下り、渡渉した沢まで下りてくると、外国人Pも同じ所を渡渉した跡がありました。あれだけの総重量を、よく耐えたなあ、このブリッジ。

雪質は山頂から林道に戻るまで、ずっと均一なパウダー。北海道に通り詰めている会員外も、「こんなことってそうない!!」と興奮気味でした。厳しい登りもなく、下りの斜度は絶妙で、森も素敵。日帰りコースに最適でした。【記 池田】

【行程】新見温泉(8:16)～山頂(12:00)～新見温泉(2:06)

### 3日目(27日):羊蹄山 比羅夫ルート(中村、関口、池田、橋本、植島、片山)

小樽で仕入れた毛蟹を肴に地酒を飲みあかし、暗闇に青く照らされた露天風呂から上弦の月を相手に至福の時を満喫していた。此処はニセコ山中の一軒宿、五色温泉である。この分であれば明日の羊蹄山は素晴らしいコンディションとなる事だろう。

翌朝、ボタン海老の頭でダシを取ったウドンとホタテの刺身で朝食となる。なんとも贅沢な山行。と言うかさすが北海道の山行と言うべきか、ニセコ山行と言うべきか。

車を比羅夫側登山口にまわす。既に先行パーティーが入っているようでスキーキャリアー付き車両が駐車されていた。昨晚とは違って深深と雪が降り積もる中、先行パーティーのトレースを使って進む事となる。樹林帯に阻まれ、風が無い為か日射しが無いのに身体がすぐに熱くなる。1000m付近になって急に辺りが広がる。まるでゲレンデのように美味しい斜面だ。更に登ると森林限界を超え、吹きさらしとなる。これ以上は良質



な斜面は期待できそうに無く、アイスバーンに苦しめられそうだ。時間的にもこの辺りから滑降する事が無難と判断した。此処からが素敵なパウダーの連続となる。中村、関口はテレマークを決め、蝶の様に舞う。中村の歓喜の声と舞う様は蝶というよりは鳥か！その後を池田がアルペンで決め、片山はショートスキーで、植島はアルペンで雪まみれになりながらパウダーを満喫して居るようだ。なんと云っても雲のようなパウダーがそれこそ延々と続くのである。こんなに長い距離を適度な斜面を持って滑る事が出来るなんて、羊蹄山はパウダーパラダイスエリアだ！“食事良し”、“風呂良し”、そして何より“雪良し”のパラダイス山行であった。【記 橋本】

【行程】 駐車場(9:15)～1100m地点(1:05/1:21)～駐車場(3:00)

#### 4日目 (28日) : アンヌプリ (中村、関口、橋本、植島、片山)

アンヌプリ国際スキー場からロープウェイ、リフトを乗り継ぎ、最後はスキーを担いで30分程歩くと南峰に着く。しっかりとトレースが付いており、南峰まで登らずに大沢方面へ滑り込んで行くボーダーが大勢いた。残念ながら視界は真白。せつかくなので、関口、橋本、片山の三人はアンヌプリの山頂まで足を伸ばしてみる。山頂は、ヒラフスキー場から登って来たボーダーであふれ返っていた。ゲレンデより人が多いのでは?!と思うくらい。真っ白で斜面の見えない中、次々とボーダー達の姿が北壁へと吸い込まれて行く。なんだか恐ろしい感じがしたが、一瞬、雲が切れ、広大な斜面がわずかに見えた。確かに気持ち良さそう。

私達の本日の予定は、鉾山の沢方面。しかし視界も悪く、滑り出しも急そうなので、大沢方面からまわりこんで行く事にする。それでも私には急な感じがして、かなり腰がひけながら、横滑りやキックターンで少し下る。それから右側へトラバースし、尾根を越え、少し藪っぽいところをすぎて鉾山の沢へどうやら入れたようだった。快適に滑れそうなところを探しつつ、まずはテレマークの関口さんと中村さんが滑って行く。二人とも上手いので楽々で行ってしまうが、いざ滑ってみると雪が重い…。きっと昨日の羊蹄山のイメージがあるから、余計にそう思うのかもしれない。でも樹間を抜けて滑るのは、やはり楽しい。山頂であんなに見た人影も、ここはほとんどいなかった。時々、遠くで歓声が聞こえるのみだ。傾斜も緩くなり、徐々に雪に慣れてきた頃には下に着いてしまう。後はゲレンデまで沢型を振り子状に滑って終了である。【記 片山】

アンヌプリを滑り終え、橋本さん、植島さん、片山さんは帰京。私と池田さんはもう1日滞在する予定だったが、今朝ブーツを履くときに腰を痛め、山を滑り終えると、まともに歩くことすらできなくなってしまった。なので、最終日は小樽と札幌で観光することに。しかし、同日午後は千歳が空港閉鎖！充実した北海道ツアーの余韻を、さらに1日味わうことになる。

【地図】 ニセコアンヌプリ、チセヌプリ、倶知安、羊蹄山